

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	伊万里市立大坪小学校
1 前年度 評価結果の概要	・前年度は140周年記念行事もあり、地域の方々とながらる機会が多くあった。地域の中の学校として、地域学校協働推進委員とも連携しながら、今後も地域学習に力を入れたい。 ・主体的に学習に取り組む姿勢が定着しつつあり、学習状況調査結果等から判断して、一定の成果を収めることができた。タブレットを活用したドリル学習等を更に充実させ、基礎・基本の定着を確実なものにしていきたい。 ・いじめ防止、不登校状態の解消については、普段の学校生活をしっかりと見取っていくとともに、児童との相談活動や保護者との情報共有を深め、関連機関との連携も継続しながら対応していきたい。
2 学校教育目標	一生懸命がかっこいい！一人一人のよさが輝く学校 ～自己肯定感を高める教育を通して～
3 本年度の重点目標	①主体的・対話的・深い学びの実現とともに、読解力、表現力（「根拠を示して過不足なく」説明できること）の育成を図る。また、タブレットPC等ICTを効果的に活用した学習の充実を図る。 ②児童同士が良さを互いに自覚し合える学級集団づくりを行い、自己肯定感を高める取組を行う。達成感を感じる学校行事や体験活動の充実（「地域との連携」）を図る。 ③健康教育の推進（感染症・熱中症・アレルギー等の対策）を図るとともに、学習形態の工夫、指導内容の重点化、学校行事の見直しを適宜行い、教育課程履修に遺漏のないように努める。

重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●目的に応じてタブレットPC等を活用して、進んで学習に取り組もうとする児童の育成を目指す。	○「タブレットPCを使って楽しく学習に取り組むことができた」と回答した児童90%以上	・タブレット端末等の活用した授業事例の収集、実践を行うことができる。 ・新規導入のAIDリルの活用	A	・校内研究会として、タブレットPC等の活用した授業事例の収集、実践を行うことができた。また、児童は、調べ学習やeライブラリ等にタブレットを積極的に活用することができている。	A	・校内研究ですべての先生方がタブレットPC等を活用した授業を実践することができた。また、eライブラリやMetaMojikラズルーム3研修等積極的にICT研修を行うことができた。	A	・参観をすると、どの学級でも電子黒板やタブレットPC等を活用し、授業を進めることができていた。授業後の練習問題もタブレットPCを使い、たくさん問題に取り組むことで学力向上につながると思う。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任 ・副主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳の授業の振り返りや記述において、肯定的に捉える感想をもった児童が80%以上。	・「いのちの教育指導資料」や「伊万里っ子ぐさ」「童謡歌集」を活用した学習場面を設ける。 ・全校でテーマを設定し、人権教室を学年ごとに実施する。	B	・命をテーマにした道徳教育では「いのちの教育指導資料」を活用し、地域の実話をもとにした命の教育を実践した。「童謡歌集」については給食の放送時に一斉放送をしている。	A	・道徳の振り返りにおいて肯定的な感想をもった児童が80%以上いた。	B	・個性を大切にしたい心の教育に力を入れてほしい。人権集会などの児童に関わる取り組みは今後も続けていってほしい。	・道徳推進教員
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○アンケート等の情報収集を定期的に実施 ○いじめ防止等(事案対応等)について早期に組織的対応ができていると回答した教員80%以上。	・定期的「心のアンケート」を実施し、早期発見に努める。 ・保護者、担任、生徒指導主任、教育相談担当、級外などの連携を密にし、組織としての支援を充実させる。 ・学校いじめ対策委員会において、支援の具体的な方法について話し合う。	B	・毎月「心のアンケート」を実施し、早期発見に努めることができた。また、管理職に情報共有し共通理解をすることができた。 ・人権教室や人権集会を行い、児童の人権意識を高める活動に努めることができた。6年生の社会科で、部落差別を解消するための学習にも取り組めた。 ・気になる児童について、職員連絡会などで取り上げ、担任、養護教諭、教育相談担当、管理職共有した。また、SCやSSWにつなげることができた児童もいた。	A	・全校児童に定期的に心のアンケートを実施することで、問題を把握し、早めに対応することができ、毎回管理職にも報告し、共有することができた。 ・保護者、担任、教育相談担当、級外などの連携が密になり、組織としての支援が充実して支援員配置など必要に応じた対応ができた。教育講演会が開かれ、保護者も教員も高学年児童も人権意識を深めることができた。 ・気になる子の情報共有など会議で時間を設けることで全職員による状況把握	A	・心のアンケートなどを活用し、いじめの早期発見に取り組んでほしい。また、不登校対応に力を入れてほしい。	・人権・同和教育担当 ・教育相談担当
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・学校行事(体育大会や修学旅行等)や発表会(伊万里秋祭りや公民館祭り等)などを通じて、個人で目標をもたせ、それをバックアップすることで成功体験を積ませる。	A	・各行事や学期などの目標は、キャリアパスポートを有効に活用しながら取り組むことができていた。活動後には振り返りをして達成感を味わわせ、今後の生活に生かすように指導を積ませる。 ・6年生の秋祭りの「プラスバンドフェスティバル」や「大坪ふれあいまつり」の鼓笛の発表では、大観衆の中で演奏し、感動を与えたことは児童の自己肯定感を高める活動となった。	A	・6年生は、年間を通し、学校行事や発表会に向けて、最上級生または学校の代表としての目標をもたせ、協力達成するという経験を積み重ねることができた。 ・5年生は、鼓笛の引継ぎを行い伝統行事を引き継ぐという機運が高まった。 ・1～4年生は、それぞれの学年の発達段階に応じて、生活科や総合的な学習の時間に地域探検等の学習をすることで、成功体験を積ませた。	A	・保護者の教育力の低下を感じる。保護者・地域・教職員が連携し保護者教育を進める必要がある。 ・大坪ふれあいまつりやプラスバンドフェスティバルに参加するなどして、地域と触れ合う機会があった。そのような機会を通じて児童にリーダー性を身につけさせてほしい。リーダー育成にも力をいれてほしい。	・教務主任 ・関係学年主任
●健康・体づくり	④「安全に関する資質・能力の育成」	④児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする ・「廊下を走っていない」の質問に肯定的な回答した児童80%以上。	④交通安全を行い、道路の歩き方や渡り方、自転車の安全な乗り方について指導を行う。 各学級で、寄り道をしないで通学路を帰るように指導をする。交通安全について、全校朝会などで話をする。 ・走った場合は歩き直しをさせるなど、全職員で廊下歩行についての指導を行う。 生活のきまりチェック週間、廊下歩行についての意識を高める。廊下歩行が良かったクラスを放送で紹介する。	B	・今年度も児童の交通事故の発生状況は0である。例年、5月に行っている交通安全を今年度も実施し、上学年は自転車の乗り方の指導等を中心に、下学年は横断歩道の使い方等を実施した。 ・廊下歩行の指導は常時、職員で共通して「走ったら歩きなおす」の指導を行っている。児童に意識喚起を行っているが、守れない児童もあり、継続的な指導が必要である。 ・通学路の安全点検は育友会と協力して例年、行っており、今年度も行う予定である。また、職員が月1回、校長はほぼ毎日、交通指導を行っており、交通指導員さんとの連携もとれている。	A	・今年度も児童の交通事故の発生状況は0であった。例年、5月に行っている交通安全を今年度も実施し、上学年は自転車の乗り方の指導等を中心に、下学年は横断歩道の使い方等を実施し、概ね良好であった。 ・廊下歩行の指導は常時、職員で共通して「走ったら歩きなおす」の指導を行った。ただ、月目標として児童に意識喚起を行っているが、守れない児童も多少あり、継続的な指導が必要である。 ・通学路の安全点検は育友会と協力して例年、行っており、今年度も行い、共通理解を図った。また、職員が月1回、校長はほぼ毎日、交通指導を行っており、交通指導員さんとの連携も取れている。	A	・例年取り組んでいる交通安全教室については、今後も継続して取り組んでほしい。 ・日頃の地域での道路歩行の仕方や交通ルールを守ることは、学校生活と直結している部分もあると思う。廊下歩行等、根気強く指導してほしい。	・生徒指導主任 ・交通指導担当
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日、学校閉庁日を設定する。 ・行事や会議を精選し、児童下校後、教材研究や事務業務を行う時間を確保する。 ・育友会担当業務から所属職員をできるだけ外し、夜の会合には参加しなくてよいようにする。	A	・勤務日は18:00業務終了、18:30施設として、定時退勤日を金曜日に定め、17:30業務終了、18:00施設とした。職員に呼びかければ定着しつつある。 ・育友会担当業務では、関わる担当職員を厳選し、職員に負担がかからないようにした。	A	・勤務日は18:30施設、定時退勤日は17:30勤務終了を呼びかけたところ、ほとんどの職員が守ることができた。月の超過勤務45時間未満を守ることができた。 ・業務の優先順位をつけさせたり、専門部や学年の業務は分担して取り組むことで、時間外勤務時間を減らすことができた。	A	・校時表の見直しや行事、会議の精選ができていた。教員の健康が児童のよりよい教育につながる。今後も働き方改革を推進してほしい。
●特別支援教育の充実	○児童の実態に即した具体的な支援の内容・方法の策定	○児童の実態に即した具体的な支援を行い、よりよい学校生活への適応を図る。	・特別支援教育に関する研修会を計画的に実施する。 ・校内体制を整備し、ケース会議や校内支援委員会等で対応について協議・共通理解を図る。 ・児童の特性を理解し、困りごとを解決できるよう支援をしたり、個に応じた指導を行ったりする。	B	・児童への支援の実現に向けて、講師を招き研修を行った。 ・個別の支援が必要な児童に関しては、IT活用で個別の実態・指導計画を作成し、効果的な支援の方法を考えた適切な教材を選んだりして実践することができた。 ・児童の実態に即し、支援会議を開いたり他機関と連携したりして、適切な支援を構築した。 ・連絡会後、児童の様子について伝え合う時間がなかなか取れず、職員全体で共通理解をすることが難しかった。	A	・年間計画に沿って研修を行うことができた。また、必要に応じて支援会議を開き、児童の実態に沿った支援を行うよう努めた。 ・SCやSSWと協力し、相談体制を確立し、児童や保護者の願いを受け止め、支援につなげることができた。 ・児童の状況を共有する時間を十分に確保し、連携した取組を強化していきたい。	A	・特別支援教育については、専門性の高い教員が多く、しっかりと取り組まれている。 ・SCやSSW等と協力し相談体制の確立がなされていると思われる。	・特別支援教育 コーディネーター
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○タブレットPC等ICTを効果的に活用した学習の充実	○タブレットPC等の効果的な利用に向けた研修やタブレットPC等を活用した学習事例を共有し授業実践する。	○「授業中に児童にタブレット端末を使わせる場面が増えた」と回答した教員90%以上	・教員のスキルアップのためのICT機器の操作研修を行う。	A	・校内研究会として、タブレットPC等の活用したミニ研修や授業研究を行うことができた。操作研修をもとに、先生方の授業実践を行う予定である。	A	・学習支援ソフトMetaMojikラズルームの試運用や、AIDリルの活用、学校共用で購入したヘッドフォンの活用などICT機器やソフトを活用した授業実践を行い、職員間で共有することができた。	A	・どの教室でもタブレットPCを活用して授業がなされていた。情報推進リーダーを中心に今後も研修を深めてほしい。	・ICT推進リーダー
○「ふるさと学習」の充実	○地域の良さを体感できる学習の充実	○市内(町内)に存在する社会教育施設や優れた教育資源を活用し、ふるさと伊万里(大坪町)を誇りに思う児童の割合を前年度より高める。	・地域に関わることに関心を高めるよう、地域の教育資源を活用した学習を設定する。 ・地域の祭りや伝統、地域の偉人からの学び、鼓笛隊などの活動の充実。	A	・各学年の発達段階に応じて、地域について調べ学習に取り組んだり、地域の方に講話をしてもらったりすることができた。 ・1、2年生は町探検をして地域についての理解を深めた。	A	・低・中学年は、市民図書館や歴史民俗資料館を訪問したりして地域について積極的に調べ学習に取り組むことができた。また、高学年は、福祉体験や地域の方に講話をもらったりすることができ、地域との絆が深まった。	A	・「おはなしや」からの読み聞かせや地域に向向いての校外学習を通じて、地域の良さや地域の人々の温かさ、地域に支えられていることを感じてほしい。	・学年主任 ・教務主任
●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育										

5 総合評価・次年度への展望	・学習状況調査結果等から判断して、一定の成果を収めることができた。主体的に学習に取り組む姿勢も定着しつつある。今後は更にタブレットを活用した授業展開やドリル学習等を充実させ、基礎・基本の定着を確実なものにしていきたい。 ・いじめ防止、不登校状態の解消については、普段の学校生活をしっかりと見取っていくとともに、児童との相談活動や保護者との情報共有を深め、関連機関との連携も継続しながら対応していきたい。 ・市の秋祭りプラスバンド演奏や大坪地区のふれあいまつりに鼓笛隊が参加、「おはなしや」の読み語りなど、地域の方々とながらる機会が多くあった。地域の中の学校として、地域学校協働推進委員とも連携しながら、今後も地域学習に力を入れたい。
----------------	---